

2024年度教育力研究開発機構事業報告

中央大学教育力研究開発機構

1. 本大学及び他の教育機関における大学教育の現状についての調査研究（ICTの活用に関する調査研究を含む）

(1) 本大学における教育の現状についての調査研究

1) 本学における学修に関するビッグデータの分析方法についての調査研究

【2024年度】

- ・企画課 IR グループと機構とで協同して教学 IR の推進を行う。

【2024年度実績】

- ・2025年度の新入生アンケート・在学生アンケートの設問の改訂に向けて、専任研究員が改善点について企画課と意見交換し改訂へとつなげた。
- ・今後の授業アンケートの設問について、専任研究員が他大学の項目等を調査し、企画課へ改善提案を行った。

2) 本学における各種アンケートデータの分析・フィードバック方法についての調査研究

【2024年度】

- ・2023年度分の授業アンケートについて分析を行い、学内向け分析報告会の実施及びFD推進委員会へのフィードバックを行う。
- ・新入生アンケート・在学生アンケートについて分析を行い、大学評価委員会への報告を行う。

【2024年度実績】

- ・佐々木研究員が、2023年度学部授業アンケートについて分析を行いFD推進委員会（2024年6月24日）及び学内報告会（2024年7月30日）にて報告を行った。
- ・佐々木研究員が、新入生アンケート・在学生アンケートについて報告書「2020年入学生対象学生アンケート分析報告」のとおり分析を行い、大学評価委員会（2024年7月1日）で報告を行った。
- ・「茗荷谷キャンパス行動パターンアセスメント」として、(株)日建設計、東海大学、中央大学の共同研究を実施した。教育力研究開発機構では、茗荷谷キャンパス利用時の全体的な行動・心象調査を行い、調査結果を茗荷谷キャンパス長へフィードバックした。

(2) 他の教育機関における大学教育の現状についての調査研究

1) 他の教育機関での先行事例等の調査研究

【2024年度】

- ・学修成果を可視化する施策の一つとして、学生ポートフォリオやDPを指標とした達成度評価を導入している他大学の調査研究を行う。

【2024年度実績】

- ・特になし

2) 他の教育機関との情報ネットワークの構築

【2024 年度】

- ・全国私立大学 FD 連携フォーラム（JPFF）や高等教育に関する各種研究会・セミナー等に研究員が参加し、他機関の情報収集及びネットワーク構築を進める。

【2024 年度実績】

- ・大学セミナーハウス新任教員研修会（2024 年 8 月 19 日開催、澁川研究員講師）
- ・大学コンソーシアム八王子第 13 回 FD・SD フォーラム分科会「通信制高校からみる高大接続」（2024 年 8 月 21 日開催、澁川研究員講師）
- ・大学教育学会（2024 年 11 月 16,17 日開催）に澁川研究員が参加した。

2. 大学教育の新たな在り方についての調査研究（ICT の利活用に関する調査研究を含む）

（1）With コロナ/After コロナを見据えた柔軟な教育手法（オンデマンド教材を活用した反転授業等）の調査研究

【2024 年度】

- ・学内におけるオンライン手法やデジタルツールを活用した授業に関する好事例を継続して収集し、Web 公開を行う。
- ・2023 年度に策定した「DX による効果的で質の高い学修の実現に向けた指標」について、実施結果の検証を行う。
- ・中央大学映像言語メディアラボ運営委員会で行っているオンデマンド教材の調査支援と導入時の活用について提案を行う。

【2024 年度実績】

- ・グッドプラクティスのインタビューを 3 件行い、新事例を Web サイトへ掲載した。
(<https://sites.google.com/g.chuo-u.ac.jp/gpc?usp=sharing>)
- ・「DX による効果的で質の高い学修の実現に向けた指標」について、実施結果をまとめ、2024 年 11 月 7 日開催の有識者との意見交換会で、検証を行った。

（2）メディア授業告示対応のための調査研究

（3）高等教育政策や国際的動向等に関する調査研究

3. 大学教育力向上に資する教育の技法及びシステムの開発（学修成果評価とそれに基づく学修者の学修サイクルの改善に資する技法及びシステムの開発を含む）

（1）学修成果の把握・可視に係る技法の研究開発

【2024 年度】

- ・文学部卒業論文用ループリックの活用、効果検証の支援を行う。
- ・学生・学習ポートフォリオによる学修データの把握・可視化について継続して調査研究を進める。

【2024 年度実績】

- ・澁川研究員が、文学部卒業研究用ループリック活用について継続して支援を行っている。

（2）学生ポートフォリオに関する調査研究及び開発

【2024 年度】

- ・学生・学習ポートフォリオの開発を終え、学生や教職員が利用を開始できるよう、各種マニュアルの作成や

利用説明会等を実施する。

・学生・学習ポートフォリオの安定運用に向けて、十分なシステムスペックを調査し対応が必要な場合は対応する。

・学生・学習ポートフォリオを学生相談、正課外活動、就職活動などに活用できるか学内のニーズ調査を行う。

【2024 年度実績】

・2024 年 4 月 22 日より、学部執行部教員及び学部事務室職員を対象に、ポートフォリオの公開を開始した。

・2024 年 9 月 24 日より、ポートフォリオの学生への公開を開始した。

・教職員向けにはポートフォリオの活用説明動画を作成し公開、学生向けにはポートフォリオ活用ハンドブックを作成し、利用開始にあわせて公開した。

・2025 年度新規項目（目標・省察、活動記録、留学、検定試験、私のノート等）を追加し 2025 年 4 月公開した。その際、国際センターや各学部で実施した TOEIC/TOEFL についてポートフォリオでの結果提供を開始した。

（3）データに基づく教育・授業改善手法に係る研究・支援（教学 IR）

【2024 年度】

・企画課 IR グループと機構とで協同して教学 IR の推進を行う。

【2024 年度実績】

・2025 年度の新入生アンケート・在学生アンケートの設問の改訂に向けて、専任研究員が改善点について企画課と意見交換し改訂へとつなげた。

・今後の授業アンケートの設問について、専任研究員が他大学の項目等を調査し、企画課へ改善提案を行った。

（4）教育・学修データの利活用に係る研究・支援（個人情報保護・セキュリティ対応含む）

【2024 年度】

・学生・学習ポートフォリオ導入にあたり、個人情報保護委員会の助言に基づき、個人情報に係る研修の実施等について対応する。

【2024 年度実績】

・2025 年度のポートフォリオ全面公開にあわせて、個人情報保護についての佐藤機構長による啓発動画を作成し、2025 年 3 月に教育力研究開発機構 YouTube において公開した

（<https://youtu.be/tZ7g6OhovfA?si=SmFi3S5P-BF9MANF>）。

4. 前三号の活動を基礎とする本大学の教育の改善に関する提案及び本大学の教員が行う教育活動への支援

（1）授業全般における効果的な教育手法に関する教職員向けコンサルティングと解決支援

【2024 年度】

・アカデミック・インテグリティ（学術・研究における誠実・公平さ）推進のため 2023 年度全学部導入が決定した剽窃チェックツール「Feedback Studio」について、教育力研究開発機構において導入に向けた予算確保及び導入の調整等を行い、全学部で利用を開始する。

・「Feedback Studio」の剽窃チェック以外の機能（論文やレポートのフィードバック、採点・評価に関するオンライン学術支援などの機能）について効果的な活用を提案する。

【2024 年度実績】

- ・「Feedback Studio」の予算確保を行い、2024年10月から利用開始。利用マニュアルやFAQ、説明会動画などが閲覧可能なWebサイトと、動作確認ができるmanabaテストコースを整備。
- ・11/5に教員向け操作説明会を実施。

(2) 遠隔授業における技術的諸課題に関する教職員向けコンサルティングと解決支援

【2024年度】

- ・遠隔授業の実績ができたことで技術的な問い合わせが少なくなったことから、遠隔授業ポータル役割と提供する情報を再検討する。

【2024年度実績】

- ・教務総合事務室管轄（教育力研究開発機構・メディアラボ）の教員向けの教育に関するGoogleサイトやコンテンツを再編成し、授業支援サイトとして一元化し公開することについて検討を行い、2025年度中にリニューアル予定。

(3) 授業における知的財産権等に関する教職員向けコンサルティングと解決支援

【2024年度】

- ・授業における著作権等に関する啓蒙のため、依頼に基づき出張授業等を行う。

【2024年度実績】

- ・教職課程を履修する学生に対し、6月10、14、26日、12月4日の「教育の方法と技術」および11月14日「情報科教育法」で、酒井著作権担当職員が、出張授業「著作権について考えよう」を行った。
- ・2024年度の教職員からの著作権問い合わせは全45件。
- ・著作権ガイドブック<基礎編>について改訂、第2版を発行した。

5. 大学教育に関する研修

(1) 教育力向上に資する研修用コンテンツの開発と提供

(2) 教育力向上に資する各種講演会・研修会等の開催

【2024年度】

- ・学修データの把握・可視化の方法に関して、調査研究を踏まえた講演会等を実施する。
- ・学内向けには、新任専任教員向け研修会の講師派遣やFD講演会等を実施する。

【2024年度実績】

- ・2023年度授業アンケート分析結果報告会（2024年7月30日開催、佐々木研究員講師、澁川研究員パネラー）73名参加
- ・大学セミナーハウス主催新任教員研修セミナー（2024年8月19日開催、澁川研究員講師）
- ・大学コンソーシアム八王子主催第13回FD・SDフォーラム分科会「通信制高校からみる高大接続」（2024年8月21日開催、澁川研究員講師）
- ・新任専任教員研修会「FDワークショップ」（2024年9月4日開催、澁川研究員講師）12名参加
- ・大学基準協会主催スタディー・プログラム（2024年9月5日開催、澁川研究員講師）
- ・文学部FD講演会（2024年9月26日、佐々木研究員講師）76名参加
- ・サイエンティフィック・システム研究会教育環境分科会（2024年10月28日開催、佐藤機構長登壇）
- ・京都橘大学全学FD学習会（2025年1月8日開催、澁川研究員講師）
- ・経済学部FD講演会（2025年1月22日開催、酒井著作権担当職員）
- ・上智大学FD講演会（2025年1月24日開催、澁川研究員講師）

・FD・SDミニセミナー「生成系 AI と授業」(2025 年 3 月 14・21 日、澁川研究員講師)

6. 本大学における教育力向上に資する活動に関する連絡調整

(1) 授業に関する各種技術的サポート等についてワンストップサービスの在り方の検討

【2024 年度実績】

2 号館 1 階で行っていたメディアラボの授業支援を ForestGatewayChuo 館受付に移設統合することで合理化し、キャンパスにとらわれない授業支援 (CalaboMX や FeedBackStudio サポートなど) を充実させるための体制変更を行った。

(2) 各種授業支援に関する「よろず相談窓口」の開設

7. その他本大学における教育力向上に資する活動

(1) SARTRAS (授業目的公衆送信補償金等管理協会) への申請及び利用報告への対応支援

【2024 年度】

- ・ SARTRAS の利用報告及び補償金分配への対応を行う。
- ・ 各組織における著作物の管理について、SARTRAS 補償金分配に適切に対応できるような支援を行い、2023 年度に各組織に依頼した関連規程整備について 2024 年度中に完了させる。

【2024 年度実績】

- ・ 2024 年度分の SARTRAS への申請・登録作業実施。
- ・ 利用報告への対応 (指定: 5 月 / 文学部 / 352 件)
- ・ 各組織の著作権管理について、規程整備について支援を行い、教育力研究開発機構で把握している組織については、規程整備を完了した (全 43 件)。

(2) 教育力研究開発機構研究レポート (仮称) の発行 (Web 媒体・コンテンツの蓄積)

(3) ディスカッション・ペーパーの発行

【2024 年度】

- ・ 研究成果について、ディスカッション・ペーパーを発行し教育力研究開発機構 manaba コースに掲載する。

【2024 年度実績】

- ・ 佐々木研究員による「2020 年入学生対象学生アンケート分析報告書」及び「茗荷谷キャンパス利用者アンケート分析結果報告書」を manaba 上で公開した。

以上